

# ボランティアわ

2001年  
4月15日発行  
春号(季刊)  
Vol.4

ボランティア【ポルトガル語で舵とり】わ【輪、和】を意味します

## 2001年Jリーグ開幕！ボランティア新体制スタート！！

3月10日開幕戦。いや～寒かった！強風で帽子は飛ばし、F・マリノスも負け、ちょっと散々な開幕となりました。観客数 25,300！自主的な運営を目的とし、リーダー制を取り入れ小グループで活動するものです。リーダーがグループ内の意見を吸い上げ、事務局との反省会でタイムリーな意見交換ができるよう改善されました。リーダー制に関しては「良いと思う」と言う方がほとんどで、まずは順調なスタートでした。

【今年度リーダーの方々です】百々 邦男、浅井 悦子、橋口 正、井出 清四郎、高橋 幸吉、柏村 孝、岸本 章、大輪 正美、水川 義美、小林 正行、安田十四雄、岡田 英二、熊澤 末喜、藤田 辰夫、鈴木 裕雄、上田 敏彦、安部 由美、菊池 喜代勝、佐治 孫房、小泉 昌司、湯浅 鉄男、山本 勇、横溝公男、山田久雄、緒方 二三男、中山 正、鈴木 馨一郎、志方 興三、加藤 史典、餅原 安廣、鈴木 克明、斎藤 郁子、前田 哲哉、高橋 佳子、白沢 敏邦、志村 進、浜砂 厚雄、平川 みゆき、以上38名



### 運営ボランティア・リーダー研修会報告

去る2月10、17、24日の3日間にわたってそれぞれ午後1時半から4時まで運営ボランティア・リーダー研修会が開かれました。第1・2日目はインタービュールーム、第3日目は管理事務所の317号会議室で行われ、参加申し込み者は86名でした。木村副場長、ニッソーの片岡氏が特別出席され、新年度からの実施を目指す新リーダー制に向けて連日熱心な討議が交わされて、充実した研修ができました。  
(編集部)

#### 第1日目

競技場管理課の村本係長の司会で開講式が行われ、中村管理課長から、はじめに、平成12年度の運営・見学ボランティア別の活動実績報告と平成13年度競技場年間予定についての説明があり、次に、過去2年間の活動実績とアンケートの意見等を事務局として検討の結果、ボランティアの方々に「やって良かった。また、やろう」の意欲を持って活動をして頂くためには、誰もが活動しやすい組織づくりが必要であり、この組織を自主的かつ円滑に運営していくために、平成13年度から運営ボランティア活動にリーダー制を敷き、ボランティア事務局を設けて活動していくことを目指してこの研修会が開かれたこと、そして研修内容として、リーダーのイメージ、リーダー制の効果、リーダーにお願いする業務等を全員で討議していくことなどが、資料により説明されました。

次に、「ボランティア組織とボランティアリーダー」と題して、横浜市ボランティア協会研修委員の田村武司先生より、ボランティアの語源、ボランティアの特長、日本のボランティアとアメリカのボランティアの対比、特に、ボランティア活動のルールと心得(リーダーシップ)では、ボランティア活動をより良いものにするために、守らなければならないルールがあり、また、人と接する活動なのでマナーも大切であり、

- ・自分に何ができるか、何がしたいか、を理解する
- ・相手のプライバシーを守る
- ・相手のことを尊重する
- ・約束を守る・相手のニーズをしっかりと受け止める
- ・相手との信頼関係を大切にする
- ・できること、できないことをはっきりさせる
- ・職員とのコミュニケーションを大切にする

以上のことを考えて活動することが必要であるとの講演がありました。

その後、5～6人のグループに別れ自己紹介・活動の動機について意見交換が行われました。一旦休憩後、グループの編成替えをし、活動アンケート結果にあげられた中から、一つのテーマをとりあげ、その問題点について短い時間でしたが活発な意見交換が行われて、第1日目の研修を終了しました。  
青木 義次(U)

## 第2日目

2日目は横浜市スポーツ振興事業団指導員市村勉講師によるグループ・ゲームから始まりました。ゲームはコミュニケーションをとり指導者の話を良く聞く、グループで協力する助け合いゲーム。その後、グループに分かれてグループディスカッションを実施。集団の中で人の話しを聞く難しさと大切さが理解できました。またグループで協力することでコミュニケーションも図れ、ゲームの後に行われたグループ討議がとても入りやすく和やかな雰囲気で行えました。グループ討議の内容は「自分たちはどのような競技場ボランティア組織にしていきたいか」がテーマで、私はAグループで討議しました。「コミュニケーションが大切。前向きな意見を提言する。お客様に心から挨拶ができるボランティアになる。各自の自覚が大切で自主的に活動する事が基本」などが話し合いの結論です。今回の研修で、より一層ボランティア間のコミュニケーションが深まったことと、ボランティアとしての自覚を再認識でき有意義な研修でした。3月10日にはJリーグが開幕します。お客様に「来て良かった。また来たい」と言われるボランティアになるために皆でレベルアップしていきましょう。第3日目にはそれぞれのグループの発表があります。各グループの方向は大きくずれていないと思いますが、どんな意見が出てくるか楽しみです。

百々 邦男 (U)

## 第3日目

最終日は2日目のグループ討議の発表がメインで始まりました。各グループそれぞれ個性のある提言書を作成し順次発表されました。私もBグループの代表として発表しました。最終目標としては「何年かかるかわからないけれどボランティアだけで運営できる組織作りをめざす」と提言しました。全体的に提言としては、ボランティアどうしのコミュニケーション(意思の疎通)をさらに図る、連絡事項について伝達経路をはっきりさせようというものでした。

全グループの提言が終わると副場長の木村さんが競技場のボランティアについて事務局側がどのように考えているか、初年度スタートから今にいたるまでの経緯とこれからの展望についてお話しいただきました。ボランティアを立ち上げてから2年が経過した訳ですが、事務局もまだまだ手探りの状態で一つ一つ出てきた問題点を解決していくので精一杯な状況の中、ボランティア中心にしっかりと組織作りをしていき実務と実績を積み上げていかなければいけないと感じている、とのことでした。

最後に研修に参加した人達の中から、新体制に意欲を持たれた38名が参加者の賛同のもとリーダーに決まりました。リーダーを引き受けた人は、とても大変かもしれませんが、新体制は一人の力だけで出来るというものでもありません。ボランティア全体で助け合っていく事が大切だと思います。今回の研修に参加できなかった人達も一緒に、もっと充実した横浜国際総合競技場のボランティアとしての活動ができるように、これからも私達全員で頑張っていかなければと痛感しました。

前田 哲哉 (U)

## 見学ボランティア研修会報告

**2月18日(日)午後から管理事務所会議室で見学ボランティア研修会が開かれました。今年度の研修会は実際の活動に則したかたちで研修できるように、運営と分けて見学独自の形式で行われました。**

**出席者 25名 (編**

**纂部会**は大きく分けて2部構成で進行しました。第1部は「競技場ウルトラクイズ」と銘打った、クイズを通じて競技場についてより詳しく知ろう、というものでした。クイズは村本係長から「ジャイアント馬場の身長とスクリーン脇にある時計の直径とではどちらが長いか?」(答えは見学ツアーに参加して、ボランティアに質問してみてください)といった玄人や一部の関係者にしかわからないような内容のものが10問出題され、それを3名一組になってお互いの知恵を出し合って答えていくものでした。問題のあまりの難しさに、全問正解組はいませんでした。新たな競技場情報の吸収と、より多くの人々との交流という、普段の活動ではそうそう実現することの無いことが出来たことは、参加者には貴重な経験になりました。休憩を挟んだ後半の第2部は、これまでの活動で各自が感じてきたことを話し合おう、という意見交換会でした。「競技場を説明する際に、ツアー参加者に対して否定的なコメントをするのはどうか?」「見学コースにボランテ

ィア各自の意見をより反映させてみてはどうか?」「外国人案内に対応するための英語のマニュアルづくりに着手してはどうか?」など貴重な意見が出されました。残念ながら時間の関係でこれをより以上につめる話し合いはもてませんでしたので、これらの意見をもとに平成13年度から「英語部会(外国人対応ツアーの強化)」「新ツアーライン検討部会(高齢者、障害者対応ツアーの考案)」「(各仮称)を新設し見学ボランティアの活動をより充実させてゆくことを決めて、成果を実感できた研修会を終了しました。

来年のW杯への注目度の高まりとともに、横浜国際総合競技場に足を運ぶ人の数が増えてくることと思われませんが、そのような動きに対して、見学ボランティアは横浜国際総合競技場の良さを、世界中のより多くの人々にPRしてゆきたいと思います。

栗原 芳範 (T)

## ボランティアリーダー研修会に参加して【投稿】

吉田 祥子(U)

より多くのボランティアの仲間に伝えたいと思い、一参加者としてメモをまとめました。特に国際競技場副場長・木村重治氏のお話は参考になると思いましてほぼ忠実に再現してみました。

第3日目、AからJまで10グループの意見交換会報告・提案が終わったあと、国際競技場副場長の木村重治氏がたたれ、「皆さんがグループ討議をしている間、事務局でも競技場ボランティアの方向性について11番目のグループとして事務局で議論してきたことを話したい。私は、プログラムでは、最後に総括することになっているが、ボランティア事務局の仕事に携わってきたわけでもないし、おこがましいので」と前置きして、競技場と競技主催者、ボランティアの位置付けなどについて以下のように話されました。『競技場は、副場長の下に運営課と管理課がある。主催者との調整に当たるのが運営課、管理課がボランティアを担当している。私は競技場オープン前の準備段階から通算すると4年間運営課長をしてきた。担当ではなかったのでボランティアの方達とあまり面識はなく、ボランティア活動を横から見えてきたが、その位置付けの難しさを感じていた。いつか、行き詰まる時もあるのではないかと。』Jリーグのゲームについて言えば、F・マリノスの運営は、基本的には、有償のスタッフ、つまり業者に指示をして後は任せる、というカタチだ。チケットのもぎり、席の案内、警備、清掃などは、シミズ、ニッソーが業務を請負っている。競技場のスタート時は、アルバイトを含めて700人のスタッフが入っていた。いずれも「お客様を暖かく迎える」仕事だが、試合を主催するF・マリノスにとって、トラブルを迅速に対処できるかどうか最大の問題で、従って、警備の仕事が重視されている。マリノス側が期待するのは、1人に伝えればコトが済むシステム、1人の下に700人がいる、上意下達のシステムだと思う。マリノスのボランティアへの期待は、この700人の内の一部をアルバイトからボランティアに代え、経費を削減したいということだと思う。従って、マリノス シミズ・ニッソー アルバイト+ボランティアという構造にならざるを得ず、ボランティア側からすれば自主性・創意性を発揮しにくいシステム



にならざるを得ない。そうした中でボランティアがボランティアらしい活動をする余地はあるのか。以上が、Jリーグ時のボランティア制について私が感じてきた疑問であり、いつか行き詰まるのではないかと考えてきた理由である。今やボランティアの時代なのだからと、3年前の国体ボランティアの活動を安易に引き継いで、この競技場ボランティアはスタートしているような気がする。競技場(横浜スポーツ振興事業団)は、ボランティアの本質についてきちんと議論すべきだったと反省している。2年間で、この制度は、ボランティアみんなのための制度となっただろうか。2年を経て、ボランティアの数は半減した。(平成13年度登録者は335人)競技場でのボランティア活動は、皆さんが期待したものと違っていたのではないだろうか。残っている人に、達成感がもてる制度にしていけるのか。不満だけが残るボランティア制度というのは、矛盾だ。

施設がらみのボランティア組織というのは多くはないが、市内ではズーラシアで観客の案内をボランティアがしている。動物好きの人たちだと思う。コンサートホールで座席案内、クローク係などをつとめるボランティアもいる。いずれも施設側とボランティアで仕組みを組み立てられる構造になっていて、ボランティアの声が反映しやすい。競技場のボランティアは、何年もかかって確立されてきたマリノスの運営システムの中で活動せざるを得ない。

ボランティア、競技場、主催者三者の関係について整理する必要があると思う。今のところボランティアの活動はJリーグの試合が一番多いわけだが、マリノスとすれば、ボランティアへの期待は前述したようにコスト削減である。ボランティアからすれば満足感のある楽しいボランティア活動がしたいという事だと思う。競技場としては、ボランティア制が主催者をサポートする事により、横浜国際総合競技場での大会・イベントを誘致しやすいとの期待がある。ボランティアが達成感の得られる活動は、どのようにして実現されるのか。これが最大の課題である。ボランティアの自主性、創意を尊重することが鍵だと思うが、その場合100名以上のボランティアの取りまとめは誰がやるのか、主催者への責任は誰が保証するのか解決しなければならない課題は多く、難しく、とても大変だと思うが、一步一步取り組んでいきたい。

## ボランティアリーダー研修会に参加して【投稿】

最後にボランティアを公募した競技場（事業団）の責任について申し上げたい。当初、W杯での活躍を期待するようなことを言いながら、その場を確保し得ていないことを申し訳なく思っている。W杯について、以前は会場内は業者中心でボランティアの出番は少ないという情報があったが、最近の情報では業者＋ボランティアというシステム、つまり横浜国際総合競技場でのJリーグスタイルになるようである。JAWOC（ワールドカップ日本組織委員会）は、2002年大会の国内10会場ごとに、会場警備の業者入札を行なう段階にきている。JAWOC側のボランティアの公募も始まるようだ。2002年W杯までの残された時間の中で、これから公募したボランティアの訓練の機会もそうある訳ではない。そうした状況からすると、2002年W杯の会場ボランティアは横浜国際総合競技場を一番良く知っている皆さん方が主力になるのではないかと私は考えている。皆さん方がW杯で活躍できる場を作っていく事は事務局の責任だと思っている。』

この木村副場長の報告のあと、中村管理課長が「管理課は、ボランティア担当のほか、競技場を視察に来るお客さんも担当している。現員は、中村、大橋、村本、パイトの伊丹です」と補足説明。休息後の全体討議では、さまざまな角度から意見がだされた。「それぞれが、求められる業務をこなせているか、それが今問われている」「Jリーグについては、その枠組みでやることとして、私たちはもっとその他の行事の活動について、自分たちで検討して、どう主体的に関わっていくかを考えるべきだ」などなど。木村副場長の報告については、「まずボランティア全員に向かって話されるべきものだった。これまでも、研修会以外に、競技場側からまとまった話を聞く機会はなかった。競技場は、その立場、考えていることをボランティア全員にしっかりと伝えるべきだ。辞めていった人について、どうして辞めたか、どんな思いだったのかと、調べてみたことはありますか」という声があがった。これに対し木村氏は、「2年間に半数が辞めていかれたことについては、責任を痛感している。競技場のボランティアは今話したような状況に置かれており、それは自分の考えているボランティア活動と違う、と考えられるなら・・・適切な表現ではないと思うが、皆さんが求めるボランティア制を横浜国際総合競技場に求めるよりも競技場のボランティア制度とのミスマッチと受け止められて、活動の場を他に探していただくしかない。ボランティア活動の場をどこに求めるかは皆さん側に選択権があるのだから、そう申しあげるほかない。」と述べられた。

以上、私も競技場から初めてまとまった話を聞いた、

と思いましたので、木村氏の話を中心にまとめました。

リーダー研修会での私の話を吉田さんが克明にメモをとられ、投稿していただきました。感謝申し上げます。ただ、つたない話だったせいもあり、冗長すぎましたので、一部修正、削除させていただきました。（木村・記）



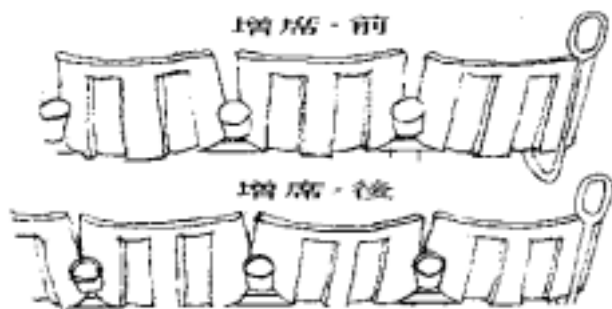
### 舩永 正夫（U）

私はリーダー研修会に参加した新老人です。研修資料として頂いた活動アンケート報告に「活動で2時間近く立ちっぱなしだった」という意見がありましたが、これに関連した私の体験をお話してみたいと思います。昨年11月の活動日はとても寒い強風の日でした。西ゲートで2回目のチラシ配りを1時間続けたあと、休息も無くすぐにエレベーター前の立哨にシフトになりました。7階E V前での30分間を終えて、次の6階前E Vに移動中のことです。同じグループの方から「お疲れでしょう。私が代わりましょう」との申し出を頂いて、有り難くその方の休息時間を頂きました。「人の優しさ」が身にしみて分かったボランティア活動でした。そして、2月のリーダー研修のグループ討議は、それぞれのボランティア活動発表で始まりました。「スポーツの感動を期待する人」「サッカーが好きな人」「ボランティアを楽しむ人」等々さまざまでした。一方Iグループの討議は終始建設的な意見が出され、その殆どが運営に関するものであり、討議結果は発表者によって報告されました。また、見方をかえた次のような意見もありました。Aさん「ここは年齢から考え方までそれぞれ違った方が、それぞれの動機でボランティアに来ています。気心を会わずことも大切です」Bさん「ボランティアの基本は人の優しさだと思います」この意見も大事なことだと、私は11月の体験を思い出しながら帰路につきました。

## 競技場ア・ラ・カルト

### 増設された個席

見学ツアーが中止されていた1・2月の間、2階席を中心に個席1,778席が増設され、72,370席になりました。主にシート間を詰めて1席を設けることですが、1席分のスペースができない席は従来通りの席です。座席の端に付いている輪は、席種エリアごとにロープを張ることと階段を上がり易くするため安全対策用の手摺です。



### この部屋は？



目に飛び込む色鮮やかな緑のフィールド。180度の大パノラマのスタンド。そして両サイドの大形映像装置。四角に切り取られた空。誰もが息を飲み込んでしまう威風堂々の競技場です。その様な中で、メイン及びバックスタンドの屋根下にひっそりと目立たぬ部屋があります。この部屋はアメリカン・フットボール競技の時に使用される指令室です。ここから地上のコーチに有線で作戦が伝えられます。これだけ高い所から見ると、両軍選手の動きは手に取るように判るでしょう。

## OFFSIDE・おかしなも

活動シーズン到来！今年度は活動範囲がさらに広がり、場内美化のグループができました。そこで、今回はこのグループだけでなく、ボランティア全員がこの意識を持って活動していきたいとの思いからゴミ拾いの意識について考えてみたいと思います。

活動場所や控え室との移動の間に、目についたゴミがあったら拾っていますか？「あたり前よぉ～」と答えてくれる人が何人いるのでしょうか。ゴミを拾う。ほんのちょっとした行動ですが、気づかなければ行動に移せませんよね。常に緊張感を持ち、周囲に気を配っていれば、気づくことが出来るはず。

ある詩人の詩に『世の中にいるのは、善人と悪人ではなく、感じる人と感じない人』という言葉があります。例えば、ゴミに気づかず素通りしたボランティアがいたとします。それを見たお客様はどう感じると思いますか？たぶん淋しい気持ちになると思います。そしてボランティアのイメージも良くないものになるでしょう。ただ、そのボランティアは故意にしたことではないのです。ただ気づかなかっただけ。感じる事ができないということは、とても損なことだと思いませんか？

目についたゴミを拾う。その行動がもたらす効果は清掃という枠を越えるものだと私は思います。

## 紙上見学ツアー

とある活動日の出来事。その日はレストラン“ここ”で法事を予定しているという30人ほどの礼服の団体が参加した。これほどの人数になると個人もしくは数人で来ている一般の見学者は圧倒されてか、終始その団体のペースで進んだ。本来、競技場見学が目的でないため、各施設の説明にも熱心に聞く様子はなく、その列は長くなるばかりで最後尾の人を待たなければならなかったため、普段より時間がかかったのはいうまでもない。私が心配したのは群衆心理が働いて、立入禁止の芝に入ってしまうのではないかということであったが、それは杞憂に終わり無事にその回のツアーを終えた。私たちがホッととして、ツアーの待ち合わせ場所であるスタジアムショップ横でくつろいでいると、誰もいないはずの競技場内から男性の音がするのに気がつき、先程開けたゲートの方を見ると礼服を着た中年男性が手を振って叫んでいた。私は団体客ということで人数を正確に数えずに全員出たと思いゲートを閉めてしまったのだった。その取り残された男性はツアー終了直前に私達に無断でトイレに行っていたとのこと、自分の勝手な行動を詫言っていた。私達の方も反省しきりだったが、その男性のユーモアに救われた気がした。彼曰く「これが本当の雪隠詰め」と。

## 横浜国際総合競技場事務局だより

競技場ボランティアも3年目のシーズンを迎え、運営ボランティアではリーダー制を、また見学ボランティアでは英語マニュアルや高齢者・障害のあるお客様の対応マニュアル作りなど自主的な活動がスタートしました。

「横浜国際といえばボランティア」と言われるようボランティアの皆様と知恵と汗を出し合いながらボランティア活動を推し進めていきたいと思っております。

4月に入り、競技場事務局も異動がありました。

2年間お世話になりました。 **大橋・**

**伊丹**

これからよろしくお願ひします。 **宮田・**

**武ノ内**

## 4月、5月、6月のスタジアムツアー開催日(11時 13時 14時 15時 16時 スタート)

4月 18日(水) 25日(水) 27日(金) 30日(月・祝) 5月 2日(水) 3日(木・祝) 9日(水) 13日(日) 16日(水) 23日(水)

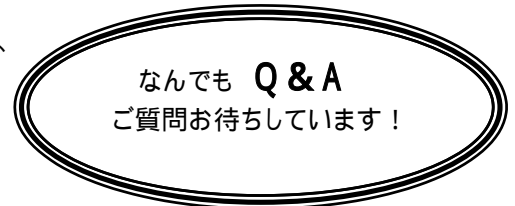
6月 13日(水) 15日(金) 17日(日) 20日(水) 22日(金) 23日(土) 24日(日) 27日(水) 29日(金)

## 今後のイベントスケジュール

月	日	イベント名
4月	29日	Jリーグ 横浜 vs 広島
5月	4日	チビリンピック準備
	5日	チビリンピック
	6日	Jリーグ 横浜 vs 柏
	12日	Jリーグ 横浜FC vs 川崎
	18~20日	関東インカレ陸上
6月	7日	コンフェデ杯準決勝
	10日	コンフェデ杯決勝
	16日	Jリーグ 横浜 vs FC東京
7月	7日	Jリーグ 横浜 vs 磐田
	14日	Jリーグ 横浜 vs 清水

\* 網掛けしてある斜体字の日は、ボランティア活動予定日です。

**Q** Jリーグ開幕と共に toto がとうとう始まりましたが皆さんは購入されましたか？誰か当たりましたか？恥ずかしながら、私は1億円が出た！というニュースやCMが流れるまでは、ゲーム賭博と一緒に見つかったら罰せられるものだと思っていたのです。それが間違いだと気付いた今でもとんと全くわかりません。何処で、いつまでなら、費用は？等々 toto の事、教えてください。特に1億円当たる方法を私にだけ是非お願ひ！ toto 政党の一員より



**A** toto の売り場は、今年中に全国で約8000店が予定されていますが、お弁当屋さん・ガソリンスタンド・auショップ・チケットショップなどなど約6000店でスタートの予定です。しかしJリーグ会場では発売されません。発売は原則として、指定試合(13試合)の1週間前～前日までとなり朝8時～夜10時の内、各販売店の営業時間内となっています。また、1口・100円から買うことが出来ます。さて、1億円当てるコツは、まず自身の勘を頼りに買ってみることです。それすれば貴方に1億円が当たる権利ができます...!

## 編集後記

百々邦男 岩松節子 前田哲哉 浅井悦子 橋口正 高瀬勝 青木義次

先日、“W杯をきっかけに私にもできる市民活動”という講座に参加し、横浜国際総合競技場周辺を歩きました。ここ新横浜は昔のたたずまいを感じさせる住宅街、近代的ビルが立ち並ぶ駅前周辺、そして未来に向けて開発が進む競技場周辺。と見所がたくさん有ることに気が付きました。駅から競技場まで通いながっている道も、足を止め、目を留めることによって普段では感じることの出来ない新しい発見をすることが出来ました。私達ボランティアも“リーダー制”をスタートさせたことにより、色々な角度から新しい発見が生まれることでしょう。それにより、活動が一步一步前進し、「横浜国際にボランティアあり」と根づくことを大いに期待したいものです。(中村)

**お知らせ** 横浜国際競技場のボランティアでサッカーをサポートするだけでなく、自身でも実際にスポーツとして楽しみたいという声が上がっています。そんな声に答えるべく、こちらでひとつ、ボランティアサッカークラブでも、と考えています。詳細はなにも決まっておきませんが、こんな話に乗ってくれる方々がいましたら編集部まで連絡をください。(橋口)

安田十四雄 中村 香 安部由美 江部和夫 大橋靖子 山口彰悟 菅沼哲也 島田千尋 宮川弘恵 蓬田光雄 片岡節子 鈴木麗子 栗原 智 栗原芳範

編集・発行 / 〒222-0036 横浜市港北区小机町 3300 横浜国際総合競技場内

ボランティア会報誌『ボランちわ』編集部 Tel:045(477)5006 Fax:045(477)5002